

---

# すれちがい (SS)

彩月絢芽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

すれちがい（SS）

### 【Nコード】

N6850Y

### 【作者名】

彩月絢芽

### 【あらすじ】

設定は幕末か現代に限っていません。お好きに妄想してください。沖齋が、それぞれ悶々とする両片思いです。

雨の夜。この後、気づくと総司そうじはすんと、と眠りに落ちていた。総司の腕の中で一めいはその寝顔を見つめた。自分より大きく男らしい身体をしているのに、幼子のようにあどけない表情だ。

規則正しい寝息を立てている総司に、思わず一は身体を起こしかけ、口にしてしまう。

「総司、お前は・・・本当に俺を好いているのか？俺だけを？」

長い間、ずっとわだかまっていた疑問。勿論、答えはない。

答えない相手に質問するなどと、詮無いことだ。

しかし、訊かずにはおれなかった。

自分と余りに正反対の総司が、まさか自分の事を本気で惚れるとは到底思えなかった。事ある毎に「好きだよ」と臆面もなく云ってしまう神経が、一には理解できない。言葉巧みに籠絡ろうらくされてずるずると関係が続けていても、どうしても飄々ひょうひょうとした余裕に隠された総司の本心が掴めない。

(他に思う相手が、本当はいるのではないか・・・?)

きっと自分は、総司の淋しさを埋めるためだけの都合のいい相手にすぎないのだ。

(どうして俺はこんな相手に惚れてしまっているのだろう・・・)

いつの間にか生まれてしまった感情は一を戸惑わせた。翡翠の瞳で愛を囁かれるほど、きつく抱きしめられるほど、快楽を与えられるほど苦しくなる。

）このままでは、何時か俺は壊れてしまうのではないだろうか・・・  
）  
それでも、絡められた脚を解ほどけずに、一は総司の腕の中に再び身体を預けた。激しい情交のあとの、泥のような眠気が襲襲って来る。  
もう少し、もう少しだけこのままです・・・。

\*

明け方、雨は止んでいた。総司が目を覚ますと、一が腕の中で眠っていた。昨夜の疲れの色は僅かに残っているが、緩められた唇が艶めて美しい寝顔だった。だがその眦まなしりには涙の跡があった。

（一くん・・・やっぱり僕に抱かれるのが嫌なのかな）

いつも総司の軽口を、顰しかめ面で諫いさめる一。その仏頂面、ポーカーフェイスを崩してみたくて仕掛けた罠に、自分が嵌はまり込んでしまうとは。

夜の行為でも、一はいつも気持ちいいというよりも苦しそうな顔をする。自分が行き過ぎてしまったためかと思い、昼間はもうちよつと素直に思いを告げているだけなのに、一は苦い顔をして「そんな事は大つぴらに云うものではない」と撥はねつける。他の隊士とも同じような、いやむしる厳しい接し方をする。

（好きだなんて、一度も云ってくれないものね・・・。本当は、あの人のことが好きなんじゃないの？）

胸が締め付けられて、そつと言葉を零す。

「くん。僕は君が好きだよ。愛してる。くんは、僕の事好き？」

しかし、伏せられた長い紫紺の睫毛が動く気配すらない。

(このままだと、いつか僕は君を殺しちゃうんじゃないかな……?)

たまらなくなつて、総司は一の華奢な身体ををきつく抱きしめた。鼻に抜ける甘やかな声がして、一が意識を取り戻す。

「そうじ……。どうしたのだ……？」

「何でもないよ……。もうちょっと眠ろう」

そして2人は、どちらともなく意識を手放した。

雨が再び、降り始めていた。

(後書き)

ーさんは土方さんのこと、沖田さんは近藤さんのことを好きなんじや、

と互いに思ってしまったようにしました。

このあと、ハッピーエンドになってほしいなと思いつながら書きました。

寝てる時に訊くのって、意味ないし反則だと思つんですよねー。  
それとも本音が訊けると思ってるのか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6850y/>

---

すれちがい(SS)

2011年11月21日07時07分発行